

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年3月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677900070
法人名	有限会社 共生
事業所名	グループホーム共生
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町佐多郡896-2 (電話) 0994-28-4884
自己評価作成日	平成29年2月23日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の生活環境や家族関係・家族の希望・本人の望む生活が出来る様に言葉かけや会話を持ち自立した生活を援助できるように心がけている。
全身状態の観察を怠らず、状態に応じて期は数回のバイタルチェックを行い、医師と連携して異常の早期発見・早期対応に努めている
各種申請や行政のサービスを受けることが出来る様に家族と連携しながら申請の援助を行っている。
季節ごとの自然な食材の提供・社長が漁で捕った新鮮な魚介の提供・地域の方々の支援による新鮮な野菜の提供を行っている。
遠望からの面会の場合希望があれば鹿屋の事業所の協力の元鹿屋での面会もできます。収入に応じて利用料金の減額も考慮できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、自然豊かな食材に恵まれた地域である。経営者が、漁業に従事しているため、新鮮な魚介類が食卓を賑わせている。また、家族の差し入れや地域の支援により、野菜や獲れたての山菜も毎日の料理に役立てられている。利用者の能力に合わせ、食材の下ごしらえを手伝ってもらうなど食事の準備などに参加してもらっている。寒天をゼリー状にして水分補給するなど工夫している。
- 集落には、町立の診療所はあるが昨今の医者不足は深刻な状況である。管理者は、医療ニーズの高い利用者の医療連携を密に図りながら、重度化しないよう早めに対処を検討し、主治医と相談するなど健康管理、医療連携体制を強化している。現在、重度化している利用者いるが管理者は、本人、家族の意向を踏まえ、主治医と連携を図りながらぎりぎりまでホームでケアしている。利用者には特別養護老人ホームの申し込みをされている方もおられる。また、管理者は看護師の資格取得を希望する職員に対しては、学費の相談から資格取得に至るまでのフォローを積極的に実施している。
- 「いつも目配り、常に気配り、思いやりをもって地域に根ざした介護を入所者とともに築いていく」といったホームの理念は、数年前に見直し、毎月職員会議で唱和して、日々理念を意識したケアの実践に取り組み・振り返りに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホールに掲げ毎月の職員会議での唱和と、実施の奨励を促している	理念は、数年前に職員会議で話し合われたもので、地域の人的環境が変化し地域交流が、年々難しくなってきたため見直した。ホームは、なるべく地域と関り情報収集して、協力関係を築くなどし理念に沿った取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ドライブ等に出かけ近隣の方々との交流や会話に心掛けている病院受診の際も、利用者家族様や本人の意向で以前からのかかりつけ医を受診して近隣の方々との交流して頂いている。また、年に数回は近隣地域の草払い等を行い交流をしている	地域の清掃活動（年数回草払い、毎月ごみステーションの清掃など）に協力したり、集落の行事（みこし祭り、岬祭りなど）を見学したり、ドライブがてら周辺地域に出かけて地域の方々と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議等の集まり時に校区公民館長・地域代表・家族代表者・地域交番代表者の方々に近況報告を兼ね認知症の説明等を行政と共に実施している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表・家族代表・交番代表行政の方々に出席して頂き入所者様の入所者様の近況報告や行事の説明等を行い意見交換や指導を仰いでいます	他県に居住する家族も多く、会議への参加が見込めない現状であるが、状態報告書に写真、手紙を添付して報告したり、他の家族になるべく参加して頂けるよう呼びかけをしている。また、行政や警察官、参加メンバーから地域の情報収集をし意見交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入所者名簿の提出・近況報告等を行い連携を行っている	入所者名簿や利用者の暮らしぶりを毎月担当者に報告している。生活保護受給者も多く福祉担当者とも連携を密に図っている。また、市担当者には運営推進会議に参加してもらったり、グループホーム連絡協議会との連携も図れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解を職員に周知し出来るだけ行わない様に努めているが、やむを得ずに必要であれば家族と話し合い実施することもある。しかし実施に至った場合は廃止に向けての取り組みを行っている	身体拘束についての指針やマニュアルがあり、特殊な手袋の着用が必要な利用者がおられるが、廃止に向けての職員の話し合いが定期的にカンファレンスで実施されている。また、車いすの抑制帯、徘徊センサーなどの使用もあるが身体拘束三原則に則り、漫然と使用することがないように拘束の実施について職員全員で検証し廃止を検討するなど柔軟に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し虐待についての理解を深めホームの勉強会等で話し合い些細な事でも虐待につながることを周知して虐待防止について理解を深めることが出来る様に心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族や社会福祉協議会・地域振興局等と連携しながら本人の権利を擁護できるように心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時に契約書・重要事項説明書等の説明と疑問点の傾聴を行い納得して頂けるように心がけている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時や毎月の近況報告を行い意見・苦情等があれば受け入れることが出来る様に対応し、行政等の連絡先を掲示している</p>	<p>管理者は、家族が面会に来られた時に意見や要望などが出しやすい雰囲気作りや関係作りに努めている。毎月、利用者の暮らしぶりについて近況報告をしている。また、出された意見は運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議や勉強会・主任会議等で職員との意見交換や認知を行い反映できるようにしている</p>	<p>毎月の職員会議では、職員から意見や提案などを聞き取るようにしている。管理者は、随時職員との個人面談を実施しており、職場環境作りに力を入れ離職率も低い。また、職員の希望に応じて資格取得などにも尽力している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務実績や勤勉性等を考慮してボーナスや功労手当等で調節したり、資格取得時の勤務調整や無利子での立て替え払い等を行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>地域性も考慮して運転免許取得・資格取得等の奨励や資質向上のための研修への参加を呼びかけ協力している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>協議会へ参加し意見交換で他のホーム等の取り組みを理解し取り入れたり他職種との交流で見える部分を生かして取り入れたりしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問し会話し初めての入所時に顔見知りがあることで安心感を持っていただけるように心がけたり家族や本人の意見や希望に傾聴できるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に訪問し希望や意見を傾聴して本人の生活のみでなく家族の生活も尊重できるように話し合うことができる様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の希望があれば対応出来る事は実施するようにし、説明も行う		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人に合ったコミュニケーションを選択し気楽に穏やかに生活出来るように親しみをもって援助している。また、職員にも自分の家族だと思って介護できるように周知している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を深めることが出来る様に利用者・家族の希望や要望に応えながら家族の支援も負担にならない様に調整し話し合っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの指定病院のみでなく以前からのかかりつけ医院へ受診してその地域の方々と交流して頂いたり、墓参りや自宅への外出の援助も行っている	利用者は、定期受診時や集落の祭り（岬祭り）や墓参りのため外出した際に地域の方々と交流している。また、定期的に来訪される家族との関係継続、電話の取次ぎなどをおこない馴染み人や場所との関係が途切れることがないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度が軽く会話や交流が出来る様・同郷の方・気の合う方と相席にしたりして楽しく過ごせるようにその都度対応している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移床や入院等により契約が終了しても連絡事項があれば対応したり相談に応じたりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や既往歴・趣味・嗜好・家族との関係等を理解して現状と突合して家族や本人の望む生活を援助できるようにするが毎日の生活は本人の望む生活を提供できるようにしている	管理者や職員は、利用者との語らいや生活の中で本人の思いを感じ取りその思いや意向を家族に確認するなどしてカンファレンスで話し合い、意見交換して職員全員で本人の思いを共有するなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネ・生活相談員等に情報収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の援助の中でADLの把握に努め職員会議等を通し情報を共有している。毎日の申し送りや業務日誌に目を通すことにより把握している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや職員会議で情報を共有し対応や介護について話し合いその人に合った介護を提供できるようにしている	アセスメントにて本人の希望や意向を抽出し、カンファレンスや職員会議で情報が共有される。モニタリングは、定期的実施され見直しも柔軟に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に作成してある介護日誌や日計表・水分出納記録等を共有して現状を把握・共有して問題の発見解決に努め快適な援助に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況を把握して入院時の面会・洗濯物・おむつの補充等ニーズに対応している遠方からの面会時に希望があれば鹿屋の事業所の協力を貰い鹿屋での面会を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節によって山菜を採り下ごしらえを行ったり近くの港に出かけ漁の様子を観たり小魚を釣ったりして楽しんでいる		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に希望がなければ町立の診療所の受診支援を行い希望があれば希望の病院の受診支援を行う	入所前からのかかりつけ医が主治医であり、他科受診も含めて看護師や主任が受診に同行し、医療連携を中心的に実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の情報を同意のもと共有し医師や看護師に報告を行い適切な看護が受けられるようにしている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療機関の相談員や受け持ちの看護師と密に連絡を取り合い入院中の状態や必要物品の補充など把握して対応している</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>基本的には看取りは行っていない。病院と連携し緊急搬送を行っている、重度化した場合は医師の判断の元家族の希望も踏まえホームでの生活の援助を行っている</p>	<p>重度化した場合は、段階を踏まえその都度主治医や家族、関係機関と話し合っているが、遠方に居住する家族も多く、看取り実施には困難な状況である。管理者や職員は、ホームでできる精一杯なケアを提供し、病院や施設を紹介するなど看取りはしていない。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会や消防訓練を行い緊急時の連絡網に従い緊急対応を行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防の協力を貰い訓練の実施や機器の設置を行い訓練している 近隣の協力は皆が高齢者のため飛び火などがおきない様に早期発見・早期対応が出来る様に周知している</p>	<p>年2回、昼夜想定にて避難訓練を実施している。地域は高齢化しており協力体制は望めないが、津波のおそれがある時は、集落の公民館に避難場所を変更させてもらった。自動通報装置、自家発電機などあり、米、肉、お茶を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴を把握して地域の馴染みのある言葉かけで敬いと思いやりに心掛け対応するように努めている	利用者の呼び方は、本人の希望に沿うようにしている。また、地域特有の言葉使いがあり、利用者が安心できるような言葉かけしている。入浴や排泄時は、誇りやプライバシーに配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護を支持するのではなく本人の希望や要望を見出すことが出来る様に言葉かけを行い言葉を傾聴することにより把握できるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣を把握することによりその人らしい生活を支援できるように決まった時間のサービスの提供で無くゆったり過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人が選択できる場合は選んでいただき、できない場合は家族等から自然に情報を頂き選択の援助をしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや嗜好を把握し出来るだけ提供出来る様に心がけるが、病状の把握や医師の指示も踏まえて提供している。季節の山菜などは一緒に下ごしらえを行いどの様にして食したいか聞いて提供している	地域で採れた新鮮な魚や山菜が食卓に上ることも多く、餅の提供は難しいのでご飯をつぶして餅風にアレンジして喜ばれている。受診時に、外食される方や遠足には弁当持参で出かけている。家族から野菜の差し入れがあり、ツワぶきの皮むきをされる方や、テーブル拭きをされる方など個々の力量に応じてお手伝いをもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分出納の把握・疾患による制限・咀嚼・嚥下の状態・禁忌等を把握して提供している。代替えの食材も考慮してできる限りの栄養バランスを考えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行いながら口腔の観察も行っている。週に二回の義歯の消毒も行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎の声掛け誘導介助を行い排泄のリズムを確立できるように心がけ自立支援に向けている	オムツ対応だった方がリハビリパンツを使用し介助にてトイレでの排泄が可能になった例もある。排泄チェック表を活用し、排泄のリズムを把握してトイレ誘導してオムツへの排泄を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の配慮・運動・腹部マッサージ等を行い自然排便を促すが困難な場合は医師と連携して指示薬の服薬介助を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の希望に合わせて介助して希望ができない場合は定期的に介助している。また、状況に応じては昼夜を問わずに介助することもある	重度化が進み浴槽に入れる人も少なくなってきたが、シャワーやかけ湯をおこない入浴して気持ちよく過ごせるよう配慮している。冬場は暖房に努め保湿クリームを塗布したり、入浴剤を活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に合わせて臥床して頂いたりソファで休んで頂いたりしている。深夜の徘徊や不眠が身体的に異常をきたす場合はしいと連携して快眠を提供できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従い服薬介助している。内服の変更時は情報を共有し確実に介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を尊重して洗濯物の畳、食材の準備・食器洗い等一緒に会話しながら行い楽しんで頂いている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅訪問・墓参り・遠方の病院受診時の食堂などでの外食・花見・ドライブ遠足・ミカン狩り等に出かけている	戸外を散歩したりユニット間を歩行して病気の悪化予防に努めている方がおられる。また、花見やみかん狩り、受診時に自宅訪問したり外食を楽しまれる方、周辺をドライブ、墓参りなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>認知の状態に応じて家族と協議の上小遣い金を預かり外出時に買い物をしたりしている。希望の品があれば購入して来て金銭の支払いの出来る方はして頂いている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>現在は手紙を書くことが出来る方はいらっしゃいませんが年賀・暑中見舞い等のはがきを出したりしていた。希望があれば電話を掛けたり受け継いだりしている</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>立地を生かし季節の花々を飾ったり、各種行事の飾り物や行事を行っている又、認知の程度や性格に合わせてテーブルセッティングも考慮している</p>	<p>リビングには、大きなソファが置いてありゆっくりとくつろげるスペースになっている。また、ウッドデッキから外の景色を眺められるようになっており、対面式キッチンからは、調理する匂いや音、職員の話し声が家庭的な雰囲気を感じさせる。共有スペースや廊下には行事や外出先での写真や作品が掲示してある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルセッティング・景色を眺める事の出来る空間に移動する・テレビの好きな人にて対しての配慮等行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	出来る限り本人の希望を取り入れる様に心がけている。位牌・写真・を飾ったり冷蔵庫・テレビの設置等	位牌、テレビ、冷蔵庫など馴染みの物を持ち込み落ち着きがあり居心地よく過ごせる居住空間になっている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	ホーム内への手すり・スロープの設置、許可があれば名前の表示も行い自立を促しているまたねベッドの高さの調節・転落星の工夫等行っている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない